

埼玉大学教養学部同窓会だより

けやき会

第9号

けやき会の皆様へ

けやき会会長 榎木 誠
(70年卒中国文化)

けやき会の皆様、元気に
ご活躍のことと思います。

1991年に発足した教養学部同窓会「けやき会」は、今年、創立20周年を迎えました。この間、卒業後各分野で活躍する同窓会のネットワークを強化し、親睦を深めることを目指した活動を続けて来ました。20年の歩みの中では、3つの大きな節目がありました。

た。第一は、2008年に規約改正をして、在学生を会員に迎え入れたこと、第二は、先輩である旧文学部文学科・人文科の同窓会との統合を実現したこと、第三は、

2009年6月のけやき会ホームページの開設です。

こうした中で、けやき会は年一回の同窓会総会の開催、会報の発行、同窓生と在学生を結ぶ活動として、教養学部とも協力して「就職支援セミナー」の開催など、さまざまな活動に取り組んできました。2010年10月には、埼玉大学同窓会連

合会、他学部の同窓会とも協力して、初の「埼玉大学同窓会交流会」を開催するなど、全学的な同窓会活動にも積極的に参加してきました。

文化人類学専攻の同窓生が、専攻の研究成果をまとめた本を協力して発行したり、専攻や学年などさまざまなユニットで交流を深めたりする動きも着実に広がっています。

人間でいえば大人になる組織とはいっても、6000人を超える同窓生や約800人の在学生をつなぐ組織としての活動という点では、まだ一里塚にたどり着いたにすぎません。

国立大学法人化によって、埼玉大学、教養学部の教育・研究を取り巻く環境は一段と厳しさを増していま

す。とりわけ、教養学部など文系学部には強い逆風が吹いています。私たちが学び集い、「リベラルアーツ」の伝統を培ってきた教養学部を守り、学びの府としてさらに発展させていくためにも、けやき会は教養学部の教職員、在学生の方々の協力関係を強めていくことを目指します。

今、着実に広がる専攻別や学年別など広範な同窓生同士の交流の輪を有機的に結合する組織として、けやき会の活動をさらに活発化させていきたいと思えます。けやき会の皆様の一層のご活躍をお祈りするとともに、けやき会の活動への皆様のさらなるご協力をよろしくお願い申し上げます。



総会のお知らせ

平成23年度けやき会総会
設立20周年記念

1. 期日 6月25日(土)
2. 日程
1時 理事会
2時 講演 林野 宏
(65年文理学部地理卒・クレディセゾン社長)
- 3時 総会
懇親会(総会終了後)
3. 場所
東京駅日本橋口0分
サピアタワー内
東京コンファレンス5階
4. 懇親会費 6000円

20周年なのでたくさんの参加を期待しております



『埼玉大学教養学部けやき会』のホームページをぜひ発信したい事などにご利用ください。
送り先⇒info@keyakikai.net

2011年度教養学部入学案内のデータより抜粋

2010年度入学者選抜実施状況(09年度)

定員	日程	募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
160	前期	125	497(440)	465(412)	162(152)	163(172)
	後期	35	437(201)	437(200)	86(93)	(帰国子女4)

2009年業種別進路先(08年度) (上段は全体、下欄は女子)

製造	運輸 通信	飲食 小売	金融 保険	不動産	サービス	教育	公務	他	大学院
17(20)	20(28)	17(23)	31(28)	4(1)	18(23)	4(10)	17(14)	0(3)	10(17)
7	13	12	23	3	11	2	6	3	

出身校の地方別入学者数

	出身校の地方別入学者数		
	2008年度	2009年度	2010年度
北海道	2	3	2
東北	46	32	45
関東	72	102	76
(うち埼玉)	(28)	(41)	(27)
中部・近畿	27	17	21
中国・四国	10	4	5
九州・沖縄	15	10	9
外国・検定	5	8	5

転退職される

先生の言葉

長谷川三千子先生



(哲学・比較思想)

楽しきかな学問!

「これまで34年間、埼玉大学教養学部でお世話になってまいりましたが、今年の3月に停年退職を迎えることとなりました。おかげさまで本当に楽しい大学生活でございました。退職後もいっそう研究に励むつもりでございます。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます」——今年の年賀状には、例年どほりの「謹賀新年」につけ加えて、こんな挨拶をしたためた。停年退職の挨拶状と年賀状とをいっしょに済ませてしまおうといふずぼらな魂胆である。最も実感のとほりをそのままに綴ってみたら、おおよそ挨拶らしくない文面になってしまった。これではまるで、大学生活が楽しくて仕方がないので、留年し続けて34年間在籍してしまった

学生が、やうやく卒論を書きあげて卒業にこぎつけたといった塩梅である。また事実、そのとほりだったのだから仕方がない。

かつてフーバーは、物理学を学ぼうと思ひたち、まづ最初に「物理学教へます」といふ看板を出したといふ、やがて生徒たちがやってくる、自分も一緒に猛勉強をして、教へながら物理学をマスターしてしまつたといふのである。振り返ってみると、埼玉大学に就職してからの私も、まさにそんな風にして哲学を学んできたといふ気がする。おいおい、俺達そんな頼りない教師に教はつてみたのかよ、とこれを読んでゾツとする卒業生の方々もあらう。しかし、少なくとも哲学といふ学問に関する限り、すべてを十二分に知り尽くして、あとは学生に噛んで含めるやうに教へ与へるだけ、などといふ教師は、かへって最良の教師ではない。ソクラテスのやうに、自ら手探りしつつ、共に問ひかけ学んでゆくのが本当の哲学教師といふものなのだ——と、そんな言ひ訳以前に、ただもう皆と一緒に

って哲学を楽しんでしまつた、といふのが本当のところである。ただ、それを通じて、学問は楽しいものなのだ、といふ事が少しでも伝へられていたら、私としては本望だと思つている。

いま、まるで就職のための予備校みたいな大学が増えてゐるけれども、埼玉大学教養学部の特色は、将来学者になるわけではない人達にも、学問の楽しさを身をもつて味はつてもらふ、といふところにあると考へてゐる。その良き伝統がどうか失はれませんかように。

関口 順先生



(中国思想)

中国伝統文化の本を

私が埼玉大学に赴任したのは一九七七年四月、まだキャンパスの木々も育つてなく、移転当時のたまたまいを偲ばせる風景でした。学生から受けた印象は、「素直」という感じが最も強かつたように思います。

授業は中国文化コースで平田栄先生のなさつていらつしやつた思想の科目をほぼそのまま引き継ぎました

が、三十一、二の“若手”

には荷が重いものでした。ちやうどその頃、教育学部の地理の先生だったと記憶してはいますが、「教育は生ものである」「自分が面白いと思わないものを講義しても学生は面白いと思わない」というご発言をなさつてゐるのを何かの学内誌で拝見しました。そして、「これだ」と、何かドンと背中を押しつてもらつたやうな気がしたのでした。それ以来勝手にその言葉を支えにし、教科書は使うことを避け(または我々の分野では手頃なものになつたのも事実)、自分の関心を中心に授業内容を考へるようになりました。

ないとは思いません。しかし、少なくとも今は無益な辛抱をさせないよう最大限努力することが求められています。これは日本の大学文化の大きな進化の一環であり、社会の変化の反映でもあります。

社会の進展と要求にあわせてカリキュラムも少しずつ変わつて行きます。一つの時期にせつかく御縁があつたのですから、私が担当していた思想から中国(伝統)文化を考へる授業に出席されたことのある方々が何かその関連の本に手を伸ばしていただければ、教師冥利に尽きるというものです。今の私より年齢を重ねてからであつても……

本年度から、教員同窓生となります。けやき会のみならず、どうかよろしくお願い致します。

就職氷河期を

乗り越えるために

就活は3年から

岩城宏洋(3年)

私の就活は3年生の6月に東京ビッグサイトで開催

されるインターシップの合同説明会から始まりました。インターシップとは学生が企業に赴き、就労体験を行うことです。その合同説明会には約30社の企業が参加しており、学生も数万人単位で押しかけます。いろいろな企業を見て回るのが、人ごったがえした会場に何時間も缶詰め状態になるのでかなり疲れます。その中で興味のある企業を見つけ、後日その企業に志望理由書等の必要な書類を送付します。中にはインターシップの段階で面接を課す企業もあります。もちろん私もかねてから興味のある企業のインターシップの応募しました。面接はありませんでしたが、書類審査を受けました。そして晴れて書類審査を通過し、インターシップに参加できることになりました。インターシップは概ね大学の夏休み期間である7〜9月に行われます。私の参加したインターシップは9月の終わり頃でした。参加期間は企業によっては一カ月から1日のものまでまちまちですが、私は1週間のものに参加しました。

短い期間でしたが、社会の厳しさを知る事ができました。また、他大学の学生との交流も生まれ、視野を広げる事のできた貴重な1週間でした。10月に入ると多くの企業がエントリーと呼ばれる会社説明会の日程を通知するため、各企業が自社説明会を開始、各企業が自社説明会を開催するようになります。多くの学生はだいたい平均して50〜60社程度エントリーします。私も約50社程度エントリーしています。多くの企業がこの時期から会社説明会を開催するようになりませんが、人気企業となると説明会の予約が数分で満席になってしまいます。こういった訳で、どこにいてもインターネットに接続でき、説明会の予約を取れるようにするためにiPhoneなどのスマートフォンが就活生の必需品となりつつあります。この様なスマートフォンを使った就活のことを巷では「活」と言うそうです。

私はこの文を書いている1月の時点で約30社の企業説明会に参加しました。この時期で30社も！と思われるかもしれませんが、積極的に活動している学生だとこのぐらいの数が当たり前となっています。ただ、説明会は大抵平日に行われるため、どうしても学校の授業が疎かになりがちで、授業と就活のバランスを取るのに今は精一杯の状況です。とはいえ、説明会やセミナーは大学の中でも催されています。例えば、企業側が大学に多数集まり説明会を行う学内合同説明会や就職課主催の面接対策講座などです。また、11月に入ってから同窓会の方々主催の就活セミナーも企画していただいております。たいへん感謝しております。我々も同窓会の方々の御支援を無駄にしないよう精一杯頑張ります。今後も我々そして来年度以降就活を行う後輩にたいして御支援いただけると幸いです。



**保護者会で
就職状況の講演**

教養学部と協力して、同窓会（けやき会）も厳しい就職戦線に少しでもお役にたてばということ、いくつかの支援活動をしています。会長は、日経新聞社、元就職雑誌の編集長をしており、また現在、埼玉大学の就職相談員でもあります。

**けやき会からの
就職支援の活動**

な人に出会い、そして多く人に助けられているという事に気付くことができました。今後も多くの人に出会い、助けられると思います。その中で人間的に成長していきたいと思っています。



採用者側からの話
二月26日授業が終わる午後4時半ころから、校内でクレディセゾンの人事部長さんの就活にあたっての心構えについての講演がありました。けやき会からの支援活動でもありました。



**エントリーシート
の書き方**
12月24日、教養学部の3年生を対象に、エントリーシート（就職希望先へ送る書類）の書き方についてけやき会の会長からアドバイスをしました。

同窓生から

暮らしの歴史の出版人から一年貢(ねんぐ)など

谷田部隆博(70年卒)

けやき会理事の、一学年先輩である関根増男さんから、本年一月下旬、同窓会誌への寄稿のお話しをいただいた。気恥ずかしいことであるが、長年、零細な歴史書出版業を営んできたことを軸に、思ってきたこと、思うことなどを寄稿させていただくことにした。

私は、一九六六年に埼玉大学教養学部に入學した。教養学部の二期生である。自分で出版社を始めたのは、一九八〇年七月で、既に三十年を過ぎた。おもに暮らしの歴史の出版を手がけて、今日に至っている。

なぜ暮らしの歴史なのか。学生時代にもうっすらとは意識していたのであるが、歴史学という、どうも決めつけが過ぎる、一歩間違えば、皇国史観の裏返しではないかという思いを抱いていた。出版社に勤務していた若かった頃、私の恩師

となつたある歴史家に出逢つた。日本の職人史を専門分野としている方である。

このことがきっかけとなつて、歴史の学会に入会し、折に触れて、暮らしの歴史を学んできた。そうして、暮らしの変遷の研究には、大きな意義があることを実感するようになっていった。その研究も、微視であることが大切だと思つてようになっていった。

そうこうするうち、自分で出版社をおこすしか生計が立たないようなことになつて、暮らしの歴史の本作りにあたることにした。一方で、自分でも、利根川流域の生活史の研究を志し、今日までまことに細々とやってきましたという歩みである。

我孫子市は、利根川中流と手賀沼にはさまれた地である。この一帯には、「年貢」を「ねんぐ」といつてきた近代の生活史がある。「年貢(ねんぐ)」は近世の領主への税を表すのが一般であるが、この地域では、近代になつても、小作料を言い表す現在の語として「ねんぐ」と読んで使ってきた。

この地域、近世では、多くの農民は自作農であり、

小作農は少なかった。それが、明治以降になると、小作農がぐんと増えていったのである。こうなつた一番の理由は、地租改正以後の税の戸別金納であろう。近世なら村単位で現物で納めるのが基本であつて、村内部での融通が利いたが、近代になると、そうはいかなくなつた。金がない家では、金を借りて納税することになる。高利貸しが土地の集積を図るようになってくる。

色川大吉氏の秩父困民党・武州農民争闘の研究では、悪辣な銀行(実質は高利貸し)が出てくる。アメリカのスタインバックの『怒りの葡萄』でも、銀行が不気味な悪鬼のような印象で語られている。我孫子では、地場の高利貸しがうまく泳いで小作地を増やしていった。

しかし、父祖の代では小作農に墮ちたものの、刻苦して自作農に上昇した人も出ている。

上昇の手段は開拓で、手賀沼や利根川の湿地を営々と開拓し続け、自己の農地としていった。それに、開拓を手助けする昔からの名主たちもいた。自助と互助

がなお織りなしているのである。また、開拓を行政に働きかける保守政治家も複数出ている。井戸堀政治家の典型もいたのである。この地は、佐倉宗吾伝説を語り継いできた地の一部である。義民の風土もあるのである。

そして、孤立を避ける様々な交流組織をつくつていた。村の生産の第一線を引いた人達が、念仏講を作つて互いの交流と村の支えを図ってきたのは、その一例である。

まったく、人の社会は一樣には言えない。個々に見る。微視が必要だと思つた。

人がほどほどにも住みよい社会を作るには、互助と自助の織りなしが大切ではないか、地場での交流が大切ではないか、行政の音頭とりではそれは実現しないであろう。人々が勝手にやり始めることが鍵であろう。

このごろはこんな思いで、仕事に取り組んでいる。牛の歩みどころか蝸牛の歩みに違いないが、そうやってのろのろと歩み続けているのが今の自分で、いつまでやれるかは、全くわからない。

(株) つくば舎代表者
東京都文京区湯島2-32-6
03-5688-8791

ラーメン屋を開業

秋山研一郎(78年卒)

数学科志望の私が浪人中の時、本や雑誌等で人類学という学問があること知り大変興味を持ちました。さらに、埼玉大学の教養学部文化人類学コースがあるので進路変更をして、入学しました。3年生になる前、コースごとの説明会があり、阿部先生が「酒が好きだったらOK」と言われました。アルバイトと先生との飲み屋での勉強が始まりました。4年生になってから就職をしようと決め、株式会社



面接に行きました。経済学部に募集が出ていたからです。最後の役員面接で役員の一人が文化人類学にとっても興味をもっていて、私にいろいろと質問をしてみました。何とか質問に答えて翌日採用の電話をもらいました。それから18年ほど営業マンとして全国を飛び回りました。80年の人生とするならば半分来たところまで退職。

学生時代から世界を見聞してみたい夢を叶えるため、単独でフィンランドにオーロラを見に行ったり、ロスからレンタカーを借りてフーバーダム経由グランドキヤニオンに行ったり、世界をいろいろと見て回りました。

今回の投稿をきっかけに當時を思い出してみました。阿部先生と毎晩のように飲んだことや卒業のとき単位が足りず友枝先生(2009年逝去されました)にお世話になったこと。また、伝統的な？研究室での鍋会。加藤先生が初めて来た日等々思い出してきました。

サラリーマンの生活に一区切りしたところで、今までの経験を実業で生かして

みようと考える6年前に会社

を作りました。縁があつて大好きなラーメンをベースにしました。零細企業のおやじとして、任んだことのない町で地域とのかかわりを持ちながら事業をしようと考えました。現在鴻巣と群馬県の太田でらーめん屋をやっています。町の文化に触れながら町に長く住んでいる方々との交流や祭りの参加など色々経験させていたただいております。これもすばらしい先生方にご指導いただいたお陰です。これからも事業拡大を視野に入れて挑戦し続けようと思っております。

有限会社フードデザイン
太田市熊野町 6-1
0276-256717

現役生から

サークルに夢中

山岸 綾 (2年)

大学では社会学、ドイツ語、韓国語などを主に勉強している2年生で、無外流居合道同好会と、映像制作サークルmsbに所属してい

ます。

居合道は、抜刀に重点を置く武道です。下手ですが、仲間にも恵まれて、楽しく活動しています。

msbでは短い映画を作っています。この前めでたくクラシックアップして、今は編集中です。編集期間に入ると、授業中も「早く編集したい…」とばかり考えています。映像を切って貼っていくのが面白いのもありますし、撮影中の出来事が甦ってくるのも楽しいです。

今回、キスシーンに挑戦してもらったり、屋上よじのぼってもらったり、役者陣には本当にがんばってもらいました。またチョコ作りの撮影は特に面白かったです。実際にアーモンドチョコを作ってもらったのですが、チョコの風味が消えて、砂糖の甘さも消えて、味がぼぼなくなっていました。あの味は…忘れられません。

この作品も含めて、4月に上映予定なので、興味を持って下さった方、ぜひ上映会にお越し下さい!!
サークル以外では、春休みにはベトナムに旅行に行く予定です。初海外にして初

一人旅!

そんなこんなで、結構楽しく大学生活を送っています。

バイトの誇り



世古陽子 (2年)

家族連れや埼玉大学の学生に人気の行列のできるらーめん屋が埼玉大通りにあります。「こだわりらーめん津気屋」です。私は大学1年のころからそこで働かせていただいています。

大学生のスタツフが多く、学部内よりも早く、深く語りあえる友人に出会えました。バイト先は営業時間が長く、スタツフと一緒にいる時間が長いので、一緒に働く「戦友」のような感覚で絆を深めて仲良くなれるのです。

津気屋には、ある特徴があります。それは社員・スタツフに対する教育です。社長・副社長を始めとする社員の方は多くのセミナーに通い、研修を受けて自己啓発に努めたり、よりよい環境にするよう勉強に励んだりしているのです。その知識は、私たちスタツフにも広まります。定期的にかれる勉強会や面談の中で

私たちに、就職活動に向けた心構えや情報、よりよい人間関係の作り方、そして「夢」に近づくためには今何をすべきなのか、というような情報提供や人生相談をしてくれるのです。また、頻繁に一斉送信のメールで「生きていく中での考え方」の共有もしてくれまます。大学生が働く店はたくさんあっても、津気屋ほどスタツフに対して思いやりのある職場はめったにないと思います。



勉強会や面談以外にも多くのことを学びます。営業中にお客様やスタツフと触れ合うとき、商品を作る時など、いつでも学べる機会はあるのです。

バイトを通してさまざまな人に出会い、いろんな生き方に触れ、社会経験を増やしたり自分の視野を広げたり、自分のためになることとはお金を稼ぐ以外にもた



あらかると

くさんありました。今の自分に自信がいたのはバイトの環境に因るところが大きいく、本当に感謝しています。仕事内容は大変ですが、それ以上にやりがい・楽しさがあるから私はバイトが続いているのだと思います。

『文化人類学とはじめ』

出版パーティー

2010年11月27日(土) 代々木のカオチップ(タイ料理店)で、文化人類学研究室が開設されたころの思い出をまとめた『埼玉大学文化人類学とはじめ』の出版を祝うパーティーを開

催しました。開設当時の川田順造、長島信弘両先生はじめ現埼玉大学教授の井口欣也、三浦敦両先生のほか1期生の須藤健一氏、渡邊欣雄氏、2期生の小松和彦氏ら全国から30名以上も集結し、文化人類学研究室の同窓会のようなでした。最初に故友枝先生への黙祷から始まり、にぎやかに楽しく時間が過ぎて行きました。

なお、同時に研究室で最初にフィールドワークを行った秩父旧両神村の調査を40年ぶりにまとめた『両神の民俗的世界』もせりか書房から出版させました。どちらの本もご希望の方がおりましたら、関根増男までご連絡ください。
Sekine1175@yahoo.co.jp
川越市むさし野 38-13

埼玉大学フェローに

林野宏氏と加藤基氏

埼玉大学では卒業生で各界で優れた業績または功労を挙げた方に「埼玉大学フェロー」の称号を授与し、その功績を讃え、広く社会に顕彰する「埼玉大学フェロー」制度を創設しました。けやき会関係では、クレデ



イセゾン社長の林野宏氏とガボン大使の加藤基氏が顕彰されました。他の学部では小説家の池澤夏樹氏、バルセロナ五輪銀メダリスト溝口紀子氏、Suica 開発者の椎橋彰夫氏が顕彰されました。

ミニ同窓会に補助金を

また2010年度よりミニ同窓会(10名程度)に、けやき会より1万円補助することになっていきます。事務局にご連絡ください。メールで写真を送っていただくと助かります。

第1回埼玉大学

同窓生交流会開催

2010年10月27日(水) 午後6時から東京駅近くのサピアタワーで、全学部の連合同窓会主催の第1回同窓生交流会が開催されました。多くの卒業生が首都圏に住んでいるということがかえって結集する思いが足



りない現状がありました。今回これを機会に異業種交流や現役学生の就職活動の支援につながることを期待しております。学長はじめ、5学部の卒業生約170名が参集しました。教養学部卒業生も40名ほどが集まり、散会后も東京駅地下街で2次会を行い大いに盛り上がりました。

収入	繰越金	2,239,623 円
	会費・寄付(郵便振替)	1,911,620 円
	会費・寄付(現金)	0 円
	雑収入(利子)	465 円
	懇親会費	125,000 円
	計	4,276,708 円
支出	ホームページ管理費	252,525 円
	会報費	82,470 円
	同窓会連合会会費	148,000 円
	総会費	691,831 円
	懇親会費	112,050 円
	名簿買取代・送料	311,800 円
	会議費	27,018 円
	事務費	58,339 円
	学部研究教育支援	50,000 円
	計	1,734,033 円
残高		2,542,675 円
2010/3/31	郵便振替口座	1,791,864 円
2010/3/31	埼玉りそな銀行	735,997 円
2010/3/31	郵便貯金	23,071 円
2010/3/31	現金	-8,257 円
	2010年3月31日	
	会計担当	関根増男
	会計監査	武井 尚 酒井憲太郎

あとがき
けやき会の活動をより発展させるため、広く人材を求めています。ボランティアですが、ぜひやってみたいという人はご連絡ください。また各回生ごとに役員を決めたいと思います。ぜひご協力ください。

発行者
埼玉大学けやき会
(埼玉大学文理学部文学科・人文科、教養学部同窓会) 会長 榎木誠
編集担当 関根増男
事務局 〒358-8570
さいたま市桜区
下大久保 2-55
埼玉大学教養学部内
Eメール
info@keyakikai.net